

バイオPE混ハンガー開発

中央パッケージング工業 脱プラスチック需要に対応

中央パッケージング工業（大阪府八尾市、菅野充基社長）は、環境配慮型資材の提案を強める。従来のリサイクル紙製資材に加え、植物由来のバイオPE（ポリエチレン）混合のハンガーを開発するなどして商材を充実し、脱プラスチックの需要に対応する。

環境に配慮しCO₂排出量の削減に貢献する。

パッケージ類の包材やハンガーライフを主力とする同社はこの間、クラボウのアップサイクルプロジェクト「ループラス」に賛同してパートナー企業となり、生地の端材を再生した紙製の包装袋やタグ類の供給を始め

環境に配慮したハンガーは、
オペを商社経由で調達し、從
業者に配慮したハンガーは、
アシフトが強まるなか、ベト
ニアに配慮しCO₂排出量の削減に貢献するハンガー



ナム市場で紙ハンガーの引き合いが増えており、現地への紙製資材の供給も視野に入る。また、現地法人を置くバンブルデシュでは、PVC（ポリ塩化ビニル）の包材が主流の中でもPET素材のシュリンクフィルムを提案し、欧州市場向けで動き出した。ハンガー需要の拡大と併せて業績の押し上げにつながっている。

「脱プラの流れが資材全体の商量に影響し始めている」とするものの、環境資材の引き合いが活発になり、「逆風だがチャンス」と位置づけて商品開発と拡販に力を入れる。